

## 工事畫報の百號を祝して

工學博士 黒河内四郎

岡崎氏が工事畫報を創刊せられて約九ヶ年を經過し第壹百號の齡を重ねるに至つたと云ふ事である。私は工事畫報の如き専門雜誌の經營が如何に困難なものであるかを常に聞かされて居るが故に岡崎氏が工事畫報を今日あらしめられた堅忍不拔の精神力と經營の才幹に多大の敬意を拂ふものである。

私は工事畫報に二つの重要な功績を認めて居るものである。其の一つは工事畫報が過去九ヶ年間極めて眞面目に土木建築界の發展に努力された事と、私共技術者に各方面の記念すべき工事の實景を寫眞を以て残された事である。之の二大功績が工事畫報を今日の成功に導いた所以でもある。本年の九月は關東大震災より十ヶ年目に相當する。我國の土木建築界は實に關東大震災を契機として大進展をなしたと稱する事が出来る。之の意味に於て約九ヶ年前工事畫報の創刊を見た事は最も機宜を得たと稱する事が出来る。

歐洲大戰後の土木建築工事の世界的傾向は先づ「沈滯」の一語を以て盡し得ると思ふ。埃及のピラミッド建設の如き、萬里の長城の疊築の如き、果はスエズ運河やパナマ運河の開鑿の如き集中的大工事は素より十九世紀以降に於て世界を席卷した大土木工事であつた鐵道線路の建設の如きも火の消えた様な沈滯振りである。英國と歐洲大陸を結ぶドーバー海峡の海底隧道も計畫はあるらしいが近き將來に實現され相にない。アジア大陸と北アメリカ大陸のベーリング海峡を埋立て、陸續きとしようと思ふ計畫もゴシップとして屢々放送されては居るが之が實現性はドーバー海峡以上に稀薄である。寧ろ現下の土木建築界の世界的傾向は驚嘆すべき大工事時代でなくて經濟的工法の研究時代と稱するを適當とする。

鐵筋混凝土の發達、隧道掘鑿法の進歩、水中に於ける基礎工法の改良等從來の大勞力の消費に代ふるに機械力の利用、學理應用の方面に於て著しき進展を見た様に思ふ。將來に於ても之の傾向は益々其度を深め斬新なる工法が發案されるものと信ずる。

我國に於ける土木建築界は世界の趨勢と稍趣を異にして大正十二年の關東大震災を轉機として一大進展をなすに至つた事は前述した通りで、帝都復興事業による幾多著名の橋梁が隅田川を横斷して兩三年の間に完成し、大東京の主要道路が近々七八年の間に面目を一新して鋪裝せられ摩天の大建築が櫛比して偉觀を整えつゝあるが如き、又東京、大阪の如き沖積層の地盤内に地下鐵道の建設を著々と進めつゝあるが如き孰れも驚嘆すべき進歩と謂はねばならぬ。然るに我國には土木事業として幾多なすべき施設が残されて居る。全國の大小都市の大部分に上水道が完備した事は同慶に堪えないが、國民保健の立場から將來は下水道の普及も急がねばならぬ。又海運利用の見地に於て港灣の整調も急務である。國本の基礎たる農民及地方住民の福利増進を期するため河川改修も急速に片付けねばならない。其他水源の保護、陸上交通路の改善等々實に幾十億金の事業が残されて居る。而してかかる緊急を要する事業の遂行には工事單價を輕減する經濟的工法の研究が最も肝要である。

又鐵道の工事に就て見るに元來都心を外れて敷設された鐵道線路が國連の進展に伴ひ漸次最も繁華なる市街地を貫走する形態となれるため生ずる改良工事と、運輸量僅少なりし時代に建設された急曲線、急勾配の線路が運輸量の増加と快速列車の運轉に適合せざるに